

排水対策と土づくり、適期の播種作業で安定収量を確保！

排水対策で初期生育を確保

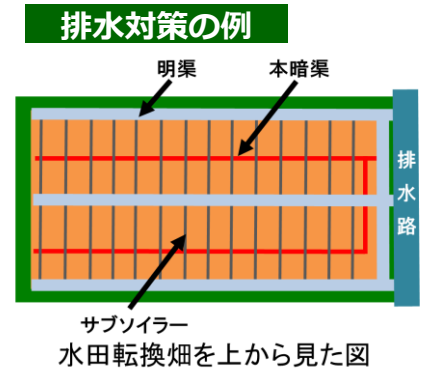
◎ 耕起前に、圃場周辺に明渠を掘り、確実に排水溝につながります。

排水溝につながっていないと明渠の効果は期待できません。

◎ 水田に隣接している圃場では、圃場周囲の明渠は特に深く掘りましょう。（目標：地下水位40cm以下）

◎ 水田転換畑で、明渠だけでなく心土破碎や本暗渠がある場合は弾丸暗渠等を組み合わせましょう。

◎ 播種後は、圃場の中央にも深さ30cm程度の溝を掘る等、排水対策を万全にしましょう。



適正な土づくり、施肥と耕起作業

◎ そばは、カルシウムの吸収が多い作物です。酸度矯正も兼ねて、**石灰資材を散布**しましょう。

◎ 施肥は**窒素成分で2～4 kg/10a**とし、結実率や耐倒伏性の向上のため**リン酸とカリは6～9 kg/10a**と窒素より多く施用します。

◎ 耕起・碎土は丁寧に行い、**耕深は15 cm以上、破碎率（2 cm以下の土塊の割合）70%以上**を目標にしましょう。

【施用のめやす】

石灰資材（現物量）	苦土石灰 100 kg/10a		
基肥（成分量）	窒素 2～4 kg/10a	リン酸 6～9 kg/10a	カリ 6～9 kg/10a

計画的な作業で、適期に播種しましょう！

◎ **播種は、平坦部で8月上旬、中山間部で7月下旬～8月上旬、山間部で7月下旬**を目安に行いましょう。

◎ 早播きは、徒長による倒伏や開花期の高温による結実不良、晩播きは、生育量不足の懸念があります。**計画的な作業で適期播種を心掛けましょう。**

◎ 「**でわかおり**」の播種量は、ドリル播き（条播）で**5～6 kg/10a**、散播で**7～8 kg/10a**です。**播種深度は、2 cm程度**を目安に播種を行います。

◎ **苗立ち本数 150 本/m²**を目標とし、品種（粒の大きさ）、播種様式や播種の時期により播種量を調整しましょう。

農作業事故と熱中症に要注意！ 声をかけ合い農作業事故を防止しましょう！

複数人での作業実施、施設や道具の点検、転落防止のための対策などを徹底しましょう。

また、こまめな休憩と水分補給、ゆとりを持った無理のない作業を心掛けましょう。